

令和 9 年度博士後期課程入学者選抜試験(令和 8 年 8 月実施)に係る 試験方法の変更について

本試験は化学理工学専攻に属する分野(研究室)を 6 群に分け、全群共通の時間割で実施します。各群に所属する分野は令和 8 年 4 月下旬に公開予定の令和 9 年度博士後期課程学生募集要項にて確認してください。京都大学大学院工学研究科化学系(材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻及び化学工学専攻)修士課程修了(見込)者を受験区分 A、それ以外の受験者を受験区分 B とします。受験区分 A では口頭試問のみ、受験区分 B では口頭試問に加え英語科目と専門科目を課すこととします。

また、出願に先立って、志望区分(研究室)の代表教員に連絡を取り、研究計画等についての相談を行ってください。

【重要な変更点】

従前においては一部の分野においては受験区分を設けていませんでしたが、本試験では全ての群において受験区分 A および B を設けます。社会人特別選抜についても同じ受験区分(A および B)とします。

○口頭試問(受験区分 A および B (全受験者))

修士論文研究の経過と、博士後期課程における研究計画に関する発表(20分)と、発表内容や基礎学力についての10分程度の口頭試問を行います。発表内容について「事前提出資料」の提出が必要ですので、令和 8 年 4 月下旬に公開予定の令和 9 年度博士後期課程学生募集要項に従って提出してください。

【重要な変更点】事前提出資料の提出を必須としました。提出締め切りとフォーマットが定められています。

○英語科目(受験区分 B のみ)

化学理工学専攻で作成した問題による筆記試験は行わず、学力検査日から過去 2 年以内に受験した TOEIC Listening & Reading Test または TOEFL-iBT (internet-Based Test) の成績の換算により英語科目の成績とします。これ以外の英語外部試験の成績は受け付けません。それぞれ成績証明書等の提出が必要となります。

なお、英語を母国語とする外国人受験者(英語を公用語とする国の国籍を有する受験者)については英語科目の受験を免除します。

【重要な変更点】従来、物質エネルギー化学専攻では英語科目を課しておらず、またそれ以外の専攻においては、一部の受験区分において各専攻において作成した問題による筆記試験を課していました。本試験においては、受験区分 B の受験者に対し、全群共通

で英語外部試験の換算による英語科目を課すこととします。対象となる英語外部試験は TOEIC Listening & Reading Test または TOEFL-iBT (internet-Based Test) で、試験日から 2 年前以降に受験した試験の成績証明書等の提出が必要となります。一方、英語を公用語とする国の国籍を有する受験者については英語科目の受験を免除することとしました。

○専門科目（受験区分 B のみ）

以下の 13 科目から 2 科目を選択。

無機化学・有機化学・物理化学・分析化学・高分子合成・高分子物性・生物化学・生物工学・数学・反応工学・基礎物理学・単位操作・プロセス制御。ただし、数学の出題範囲は微分積分学、線形代数学、常微分方程式とし、基礎物理学の出題範囲は、力学、熱力学、統計力学とする。

なお、新たな選択科目の追加や、出題範囲の変更を伴わない科目名変更が行われる可能性があります。また、受験する科目については事前申請が必要です。科目名と事前申請の方法については令和 8 年 4 月下旬に公開予定の令和 9 年博士後期課程学生募集要項で確認してください。

【重要な変更点】

選択科目の事前申告が必要です。また、従前の化学工学専攻の選択科目の「移動現象」および「プロセスシステム工学・プロセス制御」にかえて、「基礎物理学」および「プロセス制御」を選択科目とします。